



特許を取得した吉村さんと水中生物収容装置のデモ機

▲10月22日 福島民友新聞掲載

深海生物 船上で治療

アクアマリン吉村さん特許取得

いわき市アクアマリンふくしま環境保全部環境学者グループサブリーダーの吉村光太郎さん(47)が、採取した深海生物を迅速に加圧治療できる「水中生物収容装置」の特許技術を取得した。深海生物は地上に移動する過程で減圧症になるなど生きた状態での採取は難しかったが、生存率向上につながるという。同館が21日、発表した。

装置はエアポンプ式で手動での加圧が可能。形状もコンパクトで、減圧症などの症状が現れた生物を船上でいち早く加圧治療できる。生物の負担を減らし、海洋生態や環境の説明が進み、地球環境の保全につながることが期待される。

深海生物の採取は、減圧や温度変化などで目や内臓が飛び出したり、内臓が損傷したりするなどの懸念がある。これまで深海生物を収容する装置はあったが、大き過ぎて船に乗せられないなど課題があった。吉村さんは前職で潜水士の経験があり、同館に就職の命を落とすことなく採取

したい」との思いが強まり、23年4月4日に特許を出願し、今年5月28日に登録された。吉村さんは「水深の深い場所の生き物は採取が難しく、犠牲になる生き物もある。きれいな状態で展示できれば、一層海洋環境に興味を持つてもらえると思う。最終的には環境保全につなげたい」と意欲を語る。

採取生存率向上 小型の加圧装置開発

深海生物の採取には、どのような課題や懸念がありますか？

吉村光太郎さんが加圧装置開発に取り組んできたのは、どのようなことからですか？

深海とはどのような所か、調べてみましょう。また、アクアマリンふくしまでは、どのような深海生物に出会えるのか、調べてまとめてみましょう。